大阪商業大学高等学校
校　長　西本　真治

令和７年度　大阪商業大学高等学校　学校評価

１．めざす学校像

□目指す学校・基本領域

[1] 建学の理念に基づく学校づくり

(1) 建学の理念「世に役立つ人物の養成」の本校における今日的意義を探り、アイデンティティーを確立し、普遍的価値を持つ学校目標を定めた「スクールミッション」の下、教育活動を推進していく。

(2) 学校目標「スクールミッション」に沿い、教育方針を策定し、生徒、保護者、地域へ周知し、浸透を図る。
特に年度当初に方針を明確に提示し、学校評価と連動させる。

[2] コースの充実

コースポリシーの目標を基に、各コース委員会を中心に、学習指導要領に沿いながら、教育活動を具体化し推進する。これをアドミッションポリシーとして広報する。

(1) グローバル商大コースでは、スタディサプリを用いた低学力者への対応、また、進路意識が高い生徒への進学対策「まな部」を継続して行う。また、令和８年度実施を検討している「学校週５日制」に伴い、クラブ加入率を高め、各自の学習に柔軟に対応するための環境を整える。その一環として、生徒が自主的に学習するための自習室、それをサポートする常駐スタッフの運用について準備を進める。なお、自習室のサポートスタッフについては、外部委託で考える。また、グローバルマインドをもった生徒を育む取り組みとして、「第１回学園三高校合同海外語学研修」を他の設置高等学校と連携をしながら実施し、成功を目指す。

(2) 文理進学コースでは、希望進路別選択を継続実施していく。学習量・学習時間増加を柱として学習を定着させる指導に加え、学習への興味・関心を高めながら主体的に学び、探究心を養うプログラムを取り入れていく。前者については放課後授業、学期末授業、2 次試験対策の補習の他、文理スタディキャンプ（BSC）などの機会を設ける。後者では、内発的動機付けの醸成という観点から、ＯＦＩＸ英語体験などのイベントを行うとともに、文理放課後探究活動（BSA）の充実を図る。生徒の興味・関心に沿う学習活動を設定することは転・退学の防止策としても有効であると考えられるため、内容をさらに充実させるために新規プログラムの考案を行い、全プログラムに対しての予算化を行う。教科担当者会議を定期的に開催し、常に到達度を意識する。また、文理進学コース対象の特待生制度に関する広報活動を効果的に行い、専願受験希望者増に繋げる。

(3) デザイン美術コースは、進学対策としてグローバル商大コースと協働した進路対策「まな部」を継続して実施する。これらはコースの目標の一つである美術系国公立大学への進学対策としても有効であると考えられる。また、デッサン力の育成という基本的な方針に沿って、放課後授業については十分な効果が認められているため、継続しさらに効果的な運営を目指す。デザイン美術コース対象の特待生制度に関する広報活動を効果的に行い、専願受験希望者増に繋げていく。それとともに神戸芸術工科大学との繋がりをさらに強化し、高大連携授業の魅力を伝えていく。

(4) スポーツ専修コースは、3 クラス体制とする。コース生としての意識を高め、プライドを持つ指導を強化する。また、２年目を迎える高学力者の進路選択の幅を広げるために国語・英語の抽出授業を充実させる。クラブごとの授業である「スポーツ演習」を継続し、「総合的な探究の時間」において、幅広い知識を身に付けていく。さらに「簿記」や「スポーツ医学検定」などの検定・資格取得対策について準備していく。多忙化している顧問の働き方について検証を引き続き行っていき、今後新設される体育館や他の体育施設の効率的な利用方法も考えていく。

(5) 令和 5 年度より実施しているコース別修学旅行が 3 年目を迎える。令和８年度より実施を目指す「学校週５日制」と関連させ、学校行事見直しのひとつとして、実施形態などの検証を行っていく。

２．中間的目標

□学習指導領域

[1] 生徒の学習状況の把握と対応

(1) 教科会及び教科主任会を活性化し、各教科で定期考査後のデータ分析により学習状況を把握し、以後の授業に反映する。また 1 年間の授業を総括し、その結果を反映させたシラバスを有効活用する。

(2) 主体的で対話的な学びに関して研究を深め、グループワークなどの導入を図る。教務部主催の“主体的に学び、成績アップのための授業研究会”の活動を支援するとともに、その成果を周知することで、全体的な改革の一助とする。

(3) 様々な学力層、様々な目標を持った生徒への対応のために、スタディサプリの有効活用をさらに検証する。また chrome book を授業だけでなく、個々の学習・進路に応じた活用方法を研究していく。

[2] 教科教育活動の充実

(1) 授業内容を精選し、１時間１時間の授業を大切にする姿勢を教員・生徒ともに養う。しっかりとした知識を身に付けることを大前提として、さらに自ら考える力を養うための授業を進めていく。国語力・読解力を養うことをすべての教科を通して意識する。また、各教科で「思考コード」の考え方を用いて定期試験の作成を行い、観点別評価を用いて生徒・保護者へのフィードバックを行う。

(2) 実用英語技能検定、簿記検定、ＩＣＴプロフィシエンシー検定（Ｐ検）など資格取得を前提とした指導を正規授業の中で積極的に進めていき、合格率向上を目指す。また、検定前補習を担当者任せではなく、学校全体の取り組みとするようシステム化する。

(3) 導入済みのスタディサプリについては、休暇時の課題や通常の授業の補完ツールとして活用することができているが、その使用状況を把握し、より積極的で組織的な活用を進める。

(4) 令和 5 年度入学生から導入したタブレットの活用について、教科会を中心に効率的な使用方法を検討し、共有する。研修会などにも積極的に参加し、教科にフィードバックを行う。

(5) 「学校週５日制」導入に向けて、単位認定にとらわれない生徒の満足度を高める学習内容の検討も行う。

□生活指導領域

[1] 基本的生活習慣の確立、規範意識の育成

(1) スクールミッションに基づき、本校の理想とする「生徒像」を、行事・集会などを用いて機会がある毎に生徒に伝える。その継続的な指導によって「予防的」な生徒指導を目指す。また、学校外での問題事象が増えてきていることを踏まえ、自尊感情を持ち、自己肯定感を高めることで、行動に責任を持てるような

働きかけを行う。
(2) 教職員全員で生活指導を行うという意識を徹底する。
(3) 生活指導週間を有効に活用し、校則遵守の徹底を図る。特に制服着こなしや頭髪指導に重点を置く。
(4) 目標値を掲げて取り組んでいる遅刻指導を継続的に実施するとともに、登下校指導を計画的に実施する。
(5) 美化意識を高め、大掃除などを通じて校内美化に努める。
(6) 主権者教育、消費者教育、性教育、自転車などの交通安全教育、薬物乱用防止教育など各種犯罪・事故に巻き込まれないための知識を学ぶ機会を設ける。
(7)「思いやりと礼節学」（仮称）設定を検討する。

[2] 帰属意識の高揚
(1) 生徒自治会を中心に、体育祭、文化祭、校内大会などの行事を生徒の企画・運営で実施し、活性化する。外部体育館での体育祭については、継続して実施できるよう準備を進める。
(2) 学年や生徒自治会活動を中心にＨＲ活動の充実を図る。
(3) クラブ活動の活性化のため、生徒自治会を中心にクラブ加入率を高める活動を行う。
(4) 社会問題となっている酷暑への対応として、新規夏制服の制定を検討する。

[3] 特別支援教育の充実、不登校生対策の強化・改善
(1) 保健委員会を中心に不登校生徒、特性を持った生徒、また健康上留意しなければならない生徒への理解と対応を進めていく。さらに、1学期に身体的に問題を抱えた生徒の情報交換会を実施する。また、アンガーマネジメントやコーチングといった手法についても研究していく。
(2) 不登校生徒に関する教務内規に沿い、不登校生徒の早期発見に注力し、サポートルームを活用しつつ対応する。
(3) 合理的配慮義務化に伴い、対応方法を学内でルール化する。
(4) 特別支援教育理解のために啓発活動を行うとともに、特別支援教育コーディネーターを置き、対象者の支援計画を立案できるような体制作りを進める。また、対象生徒の中学時の支援計画を参考に、継続的な指導ができるように中学校との連携を強化する。
(5) 人権意識を高めさせるために、総合的な探究の時間やＨＲを有効利用する。

□進路指導領域

[1] 進路意識の高揚と進路実績の向上
(1) 3年間を通して計画的・体系的に進路指導を行い、適切な情報提供をすることで、進路に対する目的意識を形成するとともに学習への意欲を高める。社会的に広い視野を持たせるため、また自己表現のベースとして、 表現力・読解力の強化をすべての教科の学習を通じて行う。
(2) 文理進学コースの生徒、「まな部」で意欲的に取り組んでいる生徒を中心に、大学入学共通テストや一般選抜受験を奨励し、国公立大学および難関私立大学への進学意欲を高め、合格者数を増やす取り組みを行う。
(3) 就職や公務員試験受験を含め、多様な進路選択に対応できるような指導体制を構築する。
(4) 大学入学共通テストについて分析を行い、該当教科、進路指導部、コース会議を中心に対応を進める。
また、「情報Ⅰ」の自己採点結果を検証し、効果的な学習時期、学習方法を検討する。
(5) 総合型選抜など、増えつつある年内入試への対策を講じていく。

[2] 系列大学との連携強化
(1) 1年次より系列大学で学ぶことの意義を伝えて、系列大学の魅力を浸透させるなど、3年間を通じて体系的な進路指導を行う。特に隣接する大阪商業大学との連携をさらに強化し、生徒および教職員が社会が求める人材について知る機会を設けたい。
(2) デザイン美術コースを中心として、神戸芸術工科大学との連携強化を引き続き図る。教員を招いての授業や夏季休暇を利用した大学での授業等は継続していく。さらに、保護者対象の芸工大見学ツアーなどを企画し、受験先として選択されるための一助とする。

□入試・渉外領域

[1] 広報活動の強化
(1) 全教員で募集活動を行うという意識を持つ。
(2) 現状にあった各コース募集定員への変更を検討する。
(3) 東大阪市、八尾市、大阪市など地元を中心に、中学校への渉外活動を重点的に実施する。アスリート推薦での訪問を活かし、広範囲で本校を周知する活動を行う。
(4) 中学校への出前授業については、広報活動の一環として捉え、積極的に引き受ける。
(5) 学習塾への訪問回数を増加し、広報活動に努める。学習塾対象説明会のみならず、塾を訪問しての説明会を提案する。
(6) 学校案内（パンフレット）作成にあたり、業者との連携を重ね、本校のアピールしたい内容を着実に伝えることのできるものをつくる。
(7) 本校でのオープンスクール、入試説明会を全教職員で取り組み、生徒の参加や協力も得ながら内容をさらに充実させる。
(8) 行事やクラブ活動など本校の情報を積極的に発信し、ホームページの更新頻度を高めていく。またSNSを利用した広報活動の検討も行う。
(9) ＷＥＢ出願は継続して実施する。昨年度導入した合否発表（対受験生および対中学校）システムを継続し、今後入学手続きのＷＥＢ化など有効活用を継続して検討する。

[2] 専願受験者の確保
(1) コースポリシーに沿った教育活動を明確にし、専願志願者増を目指す。グローバル商大２００名、文理進学２５名、スポーツ専修１００名、デザイン美術２５名　計３５０名の専願受験者を目指す。
(2) 充実した特待生制度について広報を強化するとともに、中学校や学習塾へ丁寧に説明することで理解を得るようにする。
(3) 文理進学コースでは、大学合格実績や模試のデータを用いた個々の学力の伸度を伝え、また進路希望に対応した細やかなカリキュラムの魅力を伝える。新設した文理進学コース特待生制度を強調し、専願志望者を増加させる。
(4) 放課後デッサン指導や学習指導、また、神戸芸術工科大学との高大連携を強く打ち出すことでデザイン美術コースの魅力を伝える。また新設したデザイン美術コース特待生制度を強調し専願志望者を増加させる。また、デッサン講習会において、優秀な結果を出した生徒を把握し、その出身中学校へ本校入試渉外担当者と美術教員が訪問するなどの直接的なアプローチを積極的に行う。

[3] 女子生徒の確保

(1) 共学校としての認知を受けるために女子生徒数を志願者の 45%、入学者の 40%を目標に取り組む。

(2) 人気のある制服の着こなしと魅力を伝える。女子生徒目線で変更した体育授業時のジャージや、サニタリーボックスを設置したトイレ、什器の入れ替えを行い明るい雰囲気となった食堂など、近年改善してきた点をアピールしていく。また、さらに女子生徒の満足度を高める施策を行い、改善に向けて努力していく

(3) 実績をあげている陸上競技部、柔道部、空手道部などの女子生徒の活躍を紹介し、女子生徒に対する募集活動を強化していく。

□教員の研修・研究領域

[1] 教員の教育力向上

(1) 教科指導力の向上を最重点目標として、時間講師も含めて全教員が行う公開授業（研究授業）を継続実施する。見学した教員の事後アンケートを教科担当者にフィードバックすることで、授業内容・方法の向上を図る。また ICT 機器を用いた教育実践の研究授業を適宜行う。

(2) 校内研修会を体系的に行い、教員の教育力向上を図るとともに意識統一を行う。教務部主催の放課後ミニ勉強会や常勤講師 1 年目対象の研修会は継続して実施する。

(3) 外部研究会への積極的な参加を促す、または指名する。参加後に研修会や教科会で報告し、全体に情報が共有できるようにする。

(4) 学校評価や授業評価の項目を、スクールミッションと連動できるように見直し、実施する。結果を基に授業を分析し、授業改善の指針とする。

(5) 教科会を充実し、教科内での意見交換や止揚の場・教科教育力向上の場として活用する。

(6) 生徒のモチベーションを上げる話し方、接し方を講じ、現状の社会通念に即した教授方法を確立する。

[2] 教員組織の活性化

(1) 教育目標や課題を全教職員で共通認識し、該当分掌を中心に教員相互で助け合える組織を継続する。

(2) 各分掌での業務や責任の所在の見直しを行う。「総務部（仮)」の設置を検討し、各分掌業務のバランスを図る。

□経営領域

[1] 教員の労務管理

(1) 法人本部と綿密に連携しながら、“働き方改革”に伴う教員の労働時間の問題を踏まえつつ、人事計画を策定する。また令和 8 年度より「学校週 5 日制」の実施を目指し、法人へ相談しながら検討を始める。

(2) 衛生委員会を実施し、教員の勤務状況や職場環境について情報交換する。また、必要があれば教職員へ働きかける。

(3) 現在は月 1～2 回程度、生徒の 18 時 30 分完全下校日を設けており、教員の退勤を推奨している。これに加え、指定強化クラブ主顧問や文理進学コースの担任など、勤務時間が多くなる傾向のある教員への対応を進めていく。

(4) 教務部内にある奨学金業務を令和 7 年度に引継ぎ作業を行い、令和 8 年度より事務室業務に完全移行できるよう、法人と相談を行う。

(5) 会議や打合せの実施方法を見直し、労働時間短縮に繋げるよう検討する。

[2] 安定した財政基盤の構築

(1) 将来を見据えて適切な募集人員と入学目標数を設定するが、生徒減少期の中でも中期的に 400 名以上 13 クラスを目標に、募集活動を行う。

(2) ＬＥＤ化による効果を生かせるよう、電力の使用量の削減を継続的に呼びかけるとともに、ＩＣＴ機器を活用した紙資源の削減を呼びかける。

[3] 教育環境の充実

「中期計画達成のための施策・投資計画」に基づき、令和 7 年度は下記のとおり各事業を推進していきたい。

(1) 体育諸施設改修・整備事業

大阪商業大学北敷地の人工芝グラウンドに加え、テニスコースも授業、課外活動の両面で有効活用する。それに伴い現存の体育館横テニスコート（１面分）のスペースを整備し、授業、課外活動などで利用できるようにする。また、100 周年記念事業の一環として準備が進んでいる新体育館新築に向けて法人本部とも連携を密にしながら整備を進めていく。現存の体育館および剣道場について、新体育館完成まで使用することになるが、昨今の酷暑のために夏季の授業や課外活動において決して安心・安全でない状態となっている。生徒や活動に携わる教員の健康のために、酷暑対策が急務である。

(2) マルチメディア教室の更新

保守期限をむかえるマルチメディア教室を更新する。

(3) 教職員用校務端末（ノート PC）の更新

保守期限を迎え、修理が不可能となる教職員用校務端末（ノート PC）を更新する。

(4) ＰＣ室、印刷室　印刷機更新

現在、ＰＣ室、印刷室に設置している３台の印刷機（コピー・プリンター・スキャナーの複合機）の使用頻度が非常に高く、故障頻度も増加しているため、リース期間満了に伴い、新たな機器へ更新する。

(5) 学費システムの更新・クラウド版への切り替え

現在使用中の学費システム（ＴＯＭＡＳ）のサポート終了に伴い、更新するとともにハードウエアに依存せず、常にデータを安全にバックアップできるクラウド版に切り替える。

(6) 校内防犯カメラ（7 台）の更新

校内防犯カメラ（7 台）のリース期間満了を迎えるに際し、今後、保証がなくなるため機器の更新を行う。

(7) 校舎グラウンド間陸橋塗装

本校校舎（西館）とグラウンドをつなぐ陸橋が経年劣化により塗装が剥げ、錆が目立ち見栄えも悪いため、崩落防止及び外観整備のため塗装を行う。

(8) 校務事務の適正化及び効率化の検討

校務事務の効率化も含めてクラウド型へのシステム更新の方向性を検討する。

[4] ガバナンスの強化とコンプライアンスの履行

(1) 校長・管理職及び運営委員会を中心にガバナンスの強化を図る。特に、校務分掌長、学年主任などの人事は、校長・管理職により基本案を作成し、打診の後に任命する。また、教員の指導的な立場である運営委員会の教員には、予算などを含めて可能な限り情報公開を行い、学校経営に対する参画意識を醸成する。

(2) 法令や通達へ適切に対応する。遺漏の無いよう大阪府教育庁私学課からの文書等は、管理職で回覧するとともに、関係各部署へ写しを配付する。

(3) クラブ活動の在り方について、学校方針（学校長方針）を検討し提示する。クラブでの年間計画作成や部費や合宿等に関する会計報告についての提出を義務化する。

□その他の領域

[1] 保護者との連携強化

(1) ＰＴＡ活動へ教員全体で参画・協力する。

(2) 家庭で学業成績や学校生活の様子を把握してもらうために、1学期および2学期の年2回、クラスで三者懇談を実施する。また、 保護者対象に授業公開を実施し、学校・授業の様子を見ていただく機会とする。

(3) さくら連絡網を家庭との連絡の手段として活用する。特に学校からの一方的な連絡に留まらず、欠席連絡やアンケート回収など保護者からの連絡ツールとしても有効利用する。

(4) 就学支援金及び授業料支援補助金と授業料との相殺を継続して行い、家庭の負担軽減に努める。

[2] 地域との連携

(1) クラブやコースを中心に「東大阪市民ふれあい祭り」など地域行事へ参加・協力をする。また、文化祭など本校行事を近隣へ案内し、本校の様子を知っていただく一助とする。

(2) 第三者評価委員会を設けるに当たり、近隣自治会などへ協力依頼を行う。

[3] 大阪商業大学附属幼稚園との連携

(1) 本校デザイン美術コースの協力授業を継続して行い、連携を図っていく。

(2) 運動会、避難訓練、夕涼み会などの幼稚園行事へ協力する。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[令和７年１２月実施分]	学校評価委員会からの意見
□学校生活全般 ○「学校の雰囲気がよい」 肯定的回答(生徒 84%　、保護者 81%、教員 52%) 参考）昨年度(76)　(84)　(62) ○「生徒はクラスが楽しいと感じている」 肯定的回答(生徒 91%　、保護者 84%、教員 80%) 参考）昨年度（90)　(84)　(85) ○「さくら連絡網などによって、学校の情報は適切に伝えられている」 肯定的回答(生徒 91%、保護者 94%、教員 85%) 参考）昨年度　(92)　(96)　(92) **【分析】** 「**学校の雰囲気について**」の質問に対して、保護者は約 81%が肯定的な回答である。これは昨年度と大きな変化はない。生徒の肯定的な回答も 84%であり昨年度と大きな変化はない。教員は 52%と昨年よりも 10 ポイント減らしている。 「**あいさつに溢れる学校**」については、例年通り、生徒は、70%を超える肯定的意見である。一方、教員は約 50%以上が否定的な回答となっている。教員の否定的な回答は昨年度より上昇している。クラブ員を中心とした校内での挨拶習慣が定着していると評価できるが、生徒全般にはまだ行き渡っていないと評価できる。 「**クラス活動**」については、1・2 年生がともに肯定的な回答が約 90%を超え、3 年生も 80%を超えていることは、高い評価と言える。ここ数年続けて同じような高い水準を保っており、各学級担任の日頃の教育活動の賜物である。今後も生徒と学級担任、また学年教員団が協力して、クラス・学年全体の雰囲気を良好なものにし続けなければならない。 「**さくら連絡網**」については、生徒、保護者、教員すべてにおいて約 90%前後が肯定的回答となった。昨年も高い水準であり、家庭と学校をつなぐツールとして認知されてきたと思われる。 「**スクールミッション・コースポリシー**」については、どちらの質問も、生徒、保護者は肯定的意見が 80%を超えており、また教員の肯定的意見も 50%を超えている。今後は、さらに学校全体に学校・コースの方針を浸透させる必要がある。 「**資格取得の多様性**」については、生徒は肯定的回答が 80%を超え、昨年同様の結果である。グローバル商大コースやスポーツ専修コースを中心に、生徒の満足度は高い。これに対して、保護者と教員の肯定的意見は依然として 60%前後となっている。決して低い数字ではないが、保護者の満足度をあげる努力がさらに必要である。 「**教員の教育熱心さ**」については、例年通り、生徒、保護者ともに肯定的意見が 80%を超え、教員の肯定的回答は、60%程度である。ICT 授業、観点別評価等、新しい取り組みも少しずつ定着しており、教員の日々の取り組みが評価されていると言える。	・学校の雰囲気やクラス活動に対する質問に肯定的回答が多く、教育の成果があると言える。 ・資格の取得は、生徒達の大きなモチベーションになっている。 ・コースポリシーは、生徒達はそれなりに理解しているが、スクールミッションは浸透していない。日常的に生徒達の目に触れる工夫が必要。 「さくら連絡網」は特に問題なく使えている。
□学習に関して ○「(先生は）わかりやすい授業を実践している」 肯定的回答(生徒 89%　、保護者 79%、教員 68%) 参考）昨年度　(85)　(83)　(78) ○「(生徒は）前向きな気持ちで授業に取り組んでいる」 肯定的回答(生徒 92%、保護者 76%、教員 27%) 参考）昨年度　(88)　(71)　(39) **【分析】** 「**授業のわかりやすさ**」について、1・2 年生は 90%、3 年生は 80%を超える肯定的な回答となり、ここ数年、変化がない結果である。保護者においてもほぼ同じような結果となっている。教員は肯定的回答が微増である。ICT 授業の方法も教員同士で共有が進み、進化を遂げている。今後も「学び合い」の必要がある。 「**授業への意欲的な取り組み**」については、例年通り、生徒・保護者と比較して、教員の意見が厳しいものとなっている。ただし、ICT 授業は進化しているが、教員による一方的な授業の場合、生徒が「意欲的」に取り組んでいることを評価しづらい側面もある。ICT を用いた授業方法の研究を進める一方で、評価方法の研究も必要である。 「**ベル着を守っている**」について、例年通り生徒は概ね肯定的な回答である。教員の肯定的回答は、増加している。引き続き、「ベル着」が学校全体で定着するよう指導の継続が必要である。	・とにかくわかりやすい授業をしてくれれば満足である。 ・研修会等で、ICT について研鑽を重ねている。 ・「対話」や「議論」が授業の中にあればいいと思う。

自己評価アンケートの結果と分析[令和７年１２月実施分]	学校評価委員会からの意見
□生活指導 ○「学校の規則は妥当か」 肯定的回答(生徒 77%、保護者 80%、教員 68%) 参考）昨年度 (73)　(80)　(72) ○「学校の規則を守っているか」 肯定的回答(生徒 95%、保護者 73%、教員 16%) 参考）昨年度 (93)　(73)　(22) ○「生徒は生活指導について納得している」 肯定的回答(生徒 78%　、保護者 79%、教員 33%) 参考）昨年度 (73)　(78)　(41) ○「自転車や歩行の交通ルールを守って登下校している」 肯定的回答(生徒 96%、保護者 91%、教員 16%) 参考）昨年度 (96)　(92)　(30) ○「教員は悩みを親身になって聞いてくれる」 肯定的回答(生徒 91%、保護者 85%、教員 87%) 参考）昨年度 (87)　(85)　(90) **【分析】** 「**学校の規則の妥当性**」については、肯定的意見が高い水準を保っており、また生徒も微増している。引き続き、保護者の協力が得られやすい環境は整いつつあると評価できる。 「**生徒が学校の規則を守っている**」は例年と同じく、肯定的意見における生徒、保護者の数値と教員の数値に大きな差が生じており、教員の肯定的回答が昨年より減少した。昨年同様、規則を守っていない生徒に目が行きがちであるという評価であるが、引き続き、学校全体で取り組むべき課題である。 「**生徒は生活指導に納得している**」についても、肯定的意見が生徒、保護者の数値と教員の数値に大きな差が生じている。引き続き、校則、マナーを納得して守らせる、という指導が必要である。 「**通学マナー**」について、昨年同様、生徒と保護者は肯定的回答が圧倒的に多く、その数値は 90%を超える。一方、教員は圧倒的に否定的回答が多く、意識が乖離している。今年度も、本校生の通学マナーの悪さについてのご連絡が何度となく入った。一部の生徒とはいえ、マナーの悪い生徒がまだ目立っており、継続的に啓発、指導が必要である。 「**教員は悩みを親身になって聞いてくれる**」は三者（生徒・保護者・教員）ともに例年通り、肯定的回答が大部分を占めた。日ごろの丁寧な教育活動の成果であると評価できる。本校が培ってきた最も重要視すべき教育活動であり、今後も高い評価が得られるようにしなければならない。	・校則を守れていないのは一部の生徒だと思う。
□進路指導に関して ○「授業・模擬試験が進路に対応している」 肯定的回答(生徒 91%、保護者 79%、教員 55%) 参考）昨年度 (86)　(80)　(56) ○「進路の情報は適切に提供されている」 肯定的回答(生徒 93%、保護者 83%、教員 73%) 参考）昨年度 (90)　(84)　(79) **【分析】** 「**授業・模擬試験の進路への対応**」について、生徒の肯定的回答が増加し、90%を超えた。進路の満足度は、日常の授業や模擬試験とも関連しており、引続き注力していく。 「**進路情報の提供**」については、進路指導部を中心に、進路ガイダンスや総合的な探究の時間で、将来を考えさせる機会を提供しており、一定のフォーマットが出来たと言える。３年生は 3 年連続で 90%前後の肯定的回答を得ている。	・コースによって、進路に対する意識はかなり異なると思う。 ・グローバル商大コースの中でも様々な進路目標がある。
□その他 ○「学校行事は楽しく充実している」 肯定的回答(生徒 91%、保護者 90%、教員 83%) 参考）昨年度 (90)　(91)　(78) ○「部活動は活発で充実している」 肯定的回答(生徒 91%、保護者 85%、教員 76%) 参考）昨年度 (87)　(87)　(77) ○「校内の施設・設備はよく整備されている」 肯定的回答(生徒 80%、保護者 68%、教員 27%) 参考）昨年度 (63)　(68)　(21) ○「入学して（させて）よかった」 肯定的回答(生徒 83%、保護者 85%、教員 63%) 参考）昨年度 (80)　(87)　(71) **【分析】** 「**学校行事**」について、全学年で肯定的回答が 90%に迫る水準である。体育祭・文化祭がコロナ以前の形態となり、また、体育祭が暑さ対策で体育館（Asue アリーナ）で実施できたことが、要因と思われる。 「**部活動**」についても、肯定的回答が多数を占めている。体育系はもちろんだが、文化部の活動も盛んになっている。同好会も部員を確保し、年間を通じて活動している。 「**校内施設設備**」については、例年通り否定的回答が他の項目よりも多い。新体育館の完成は間もなくだが、更なる改善が必要である。 「**入学して（させて）よかった**」については、概ね肯定的意見が多数を占めている。本校教員の日々の教育活動の賜物である。しかし、依然として、5 人に 1 人程度が「入学して良かった」とは思っておらず、この結果の原因を日々考える必要がある。	・「生徒は学校の規則を守っている」について、多くの生徒が守っているつもりだが、教員とのギャップが大きい。 ・生徒会を中心に、行事を盛り上げてくれている。 ・体育祭も、文化祭も盛り上がってよかった。 ・文化部も盛んに活動するようになってきた。

3．本年度の取組内容および自己評価

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 ［◎-評価 80%以上　○-評価 60% △-評価 40%　×-評価 20%以下］	
□学習指導領域	**[1] 生徒の学習状況の把握と対応** (1) 教科会及び教科主任会を活性化し、各教科で定期考査後のデータ分析により学習状況を把握し、以後の授業に反映する。また1年間の授業を総括し、その結果を反映させたシラバスを有効活用する。 (2) 主体的で対話的な学びに関して研究を深め、グループワークなどの導入を図る。教務部主催の“主体的に学び、成績アップのための授業研究会”の活動を支援するとともに、その成果を周知することで、全体的な改革の一助とする。 (3) 様々な学力層、様々な目標を持った生徒への対応のために、スタディサプリの有効活用をさらに検証する。またchrome bookを授業だけでなく、個々の学習・進路に応じた活用方法を研究していく。 **[2] 教科教育活動の充実** (1) 授業内容を精選し、１時間１時間の授業を大切にする姿勢を教員・生徒ともに養う。しっかりとした知識を身に付けることを大前提として、さらに自ら考える力を養うための授業を進めていく。国語力・読解力を養うことをすべての教科を通して意識する。また、各教科で「思考コード」の考え方を用いて定期試験の作成を行い、観点別評価を用いて生徒・保護者へのフィードバックを行う。 (2) 実用英語技能検定、簿記検定、ＩＣＴプロフィシエンシー検定（Ｐ検）など資格取得を前提とした指導を正規授業の中で積極的に進めていき、合格率向上を目指す。また、検定前補習を担当者任せではなく、学校全体の取り組みとするようシステム化する。 (3) 導入済みのスタディサプリについては、休暇時の課題や通常の授業の補完ツールとして活用することができているが、その使用状況を把握し、より積極的で組織的な活用を進める。 (4) 令和５年度入学生から導入したタブレットの活用について、教科会を中心に効率的な使用方法を検討し、共有する。研修会などにも積極的に参加し、教科にフィードバックを行う。 (5) 「学校週５日制」導入に向けて、単位認定にとらわれない生徒の満足度を高める学習内容の検討も行う。	・各教科定期試験などのデータ分析 ・公開授業を用いた教員同士の意見交換 ・スタディサプリを用いての考査の評価を実施 ・業者学力テストの有効利用 ・学力不振者への成績下位者補習実施 ・各教科での「思考コード」の共有 ・各教科の同一科目担当者による打ち合わせ ・各教科内で、タブレットを用いた授業法の共有 ・各種検定合格率向上およびそれに向けての学校全体としての取り組み ・「学校週５日制に向けた」新カリキュラムの作成 ・「まな部」の実施	各教科定期試験データ分析を教務部中心に行った。教科会議においても議題とし、適切な成績評価につながるようにした。		◎
			公開授業期間に授業を見学し、研鑽を積んだ。		○
			学力テストの事後指導をスタディサプリを活用して行った。ホームルームの時間を用いて指導しているが、学力向上にまではつながっていない。		△
			ベル着の習慣がある程度定着しつつある。生徒と教員の認識には開きがあるので、今後も啓発が必要である。（肯定的意見　生徒:97%、教員：54%）		○
			問題作成時に思考力を問う問題を出題することについては概ね浸透してきた。今後さらに研鑽を重ね、研究を深める必要がある。		○
			◆◆各検定試験合格数について目標設定・評価◆◆		
			英検準２級の合格（目標数値は学年・コースごとに決定）	・準２級合格→59 名＜受験 275 名＞ 合格率21.5%(昨年合格42名受験数204名21%) ・２級合格→11 名＜受験 89 名＞ 合格率 12.4%（昨年合格 14 名受験数 102 名 14%）	△
			全商簿記検定の合格	・1 級原価計算→合格 9 名＜受験 47 名＞ 合格率 19%（昨年合格 8 名受験数 93 名合格率 9%） 1 級会計→合格 5 名＜受験４ 0 名＞ 合格率 13%（昨年合格 8 名受験数 54 名合格率 15%） ・２級→合格 35 名＜受験 425 名＞ 合格率 8%(昨年合格 66 名受験数 568 名合格率 12%） ・３級→合格 163 名＜受験 378 名＞ 合格率 43%（昨年合格 248 名受験数 399 名合格率 62%）	×
			ICT プロフィシエンシー検定(P 検)の合格	P 検→合格 54 名＜受験 102 名＞ 合格率53%(昨年合格133名受験数236名56%) ※令和７年度より、３級・準２級の種別がなくなった。	×
			※合格率が昨年より減少している検定・級が多い結果となった。担当教員は多くの時間を指導にあてており、検定取得はグローバル商大コースの柱の一つとなっている。今後もコース・教科担当を中心に、粘り強く指導を続ける必要がある。		
			「まな部」は、グローバル商大コース、デザイン美術コースの進学補習の位置づけとして実施	３年生　国語６名、英語４名 （昨年：国語７名、英語９名） ２年生　国語１名、英語３名 （昨年：国語５名、英語６ 名） 参加人数は減少している。今年度が最後の取り組みとなり、グローバル商大コースの取り組みは「みくらぼ」の活動に引き継がれる。	×

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 ◎-評価 80%以上　○-評価 60% △-評価 40%　×-評価 20%以	
□生活指導領域	**[1] 基本的生活習慣の確立、規範意識の育成** (1) スクールミッションに基づき、本校の理想とする「生徒像」を、行事・集会などを用いて機会がある毎に生徒に伝える。その継続的な指導によって「予防的」な生徒指導を目指す。また、学校外での問題事象が増えてきていることを踏まえ、自尊感情を持ち、自己肯定感を高めることで、行動に責任を持てるような働きかけを行う。 (2) 教職員全員で生活指導を行うという意識を徹底する。 (3) 生活指導週間を有効に活用し、校則遵守の徹底を図る。特に制服着こなしや頭髪指導に重点を置く。 (4) 目標値を掲げて取り組んでいる遅刻指導を継続的に実施するとともに、登下校指導を計画的に実施する。 (5) 美化意識を高め、大掃除などを通じて校内美化に努める。 (6) 主権者教育、消費者教育、性教育、自転車などの交通安全教育、薬物乱用防止教育など各種犯罪・事故に巻き込まれないための知識を学ぶ機会を設ける。 (7)「思いやりと礼節学」（仮称）設定を検討する。 **[2] 帰属意識の高揚** (1) 生徒自治会を中心に、体育祭、文化祭、校内大会などの行事を生徒の企画・運営で実施し、活性化する。外部体育館での体育祭については、継続して実施できるよう準備を進める。 (2) 学年や生徒自治会活動を中心にＨＲ活動の充実を図る。 (3) クラブ活動の活性化のため、生徒自治会を中心にクラブ加入率を高める活動を行う。 (4) 社会問題となっている酷暑への対応として、新規夏制服の制定を検討する。 **[3] 特別支援教育の充実、不登校生対策の強化・改善** (1) 保健委員会を中心に不登校生徒、特性を持った生徒、また健康上留意しなければならない生徒への理解と対応を進めていく。さらに、1 学期に身体的に問題を抱えた生徒の情報交換会を実施する。また、アンガーマネジメントやコーチングといった手法についても研究していく。 (2) 不登校生徒に関する教務内規に沿い、不登校生徒の早期発見に注力し、サポートルームを活用しつつ対応する。 (3) 合理的配慮義務化に伴い、対応方法を学内でルール化する。 (4) 特別支援教育理解のために啓発活動を行うとともに、特別支援教育コーディネーターを置き、対象者の支援計画を立案できるような体制作りを進める。また、対象生徒の中学時の支援計画を参考に、継続的な指導ができるように中学校との連携を強化する。 (5) 人権意識を高めさせるために、総合的な探究の時間やＨＲを有効利用する。	・通常の登下校指導だけでなく、教員全員で生活指導週間において登校指導を行う。 ・学年集会、コース集会などを通じて、マナー意識の徹底などを行う。 ・生徒の人権などを配慮した丁寧な指導を行う。 ・年間遅刻数目標を 4500 名以下とし、生徒指導部だけでなく、学年でも細やかな遅刻指導を行い、遅刻数減少への取り組みを行う。 大掃除を行事予定に組み入れ、学校全体の美化に努める。 ・生徒対象マナーや性教育などの講座の開催 ・スマートフォンのマナー（朝礼～終礼時までの使用禁止、歩きスマホ、音だし等の禁止）に対して指導を行う。 ・生徒自治会を中心とした、各種学校行事への取り組み ・生徒自治会オリエンテーションでのクラブ加入の啓発 ・行事ごとに代議員会や体育委員会、文化委員会のメンバーが生徒自治会と連絡を取りながら、学校行事に取り組む。 ・酷暑対策として、新しい夏服の制定を検討する。 ・不登校生徒に関する内規運用 ・スクールライフサポート委員会の新設 ・人権教育委員会による取り組み	教員全員による登校指導の実施	全教員による対人マナーや校則を遵守させるよう啓発に努めた。多くの生徒はルールを守れているが、制服の身だしなみ指導は引き続き必要である。ていさい	△
			学年集会、コース集会の実施	会の司会を生徒にさせるなど、工夫が見られた。	○
			人権教育委員長による講演	Chromebook を用いて各教室で配信した。	○
			年間を通しての遅刻指導	年間遅刻数 5431 名＜昨年 5359 名・一昨年 5908 名＞で目標数 4500 名以下を達成することができなかった。昨年よりもやや増加した。遅刻指導を課しつつ、各学年、クラス担任は家庭連絡も含め、粘り強く指導している。	×
			大掃除の実施	行事予定通り行えた。	○
			交通安全講習会・性教育の実施	交通安全講習会は 1 学年を対象に、性教育は各学年で実施した。	○
			スマートフォンのマナーの徹底	朝礼時の回収等、指導を継続しており、学校全体に浸透している。	○
			各種学校行事への取り組み	各種行事を予定通り開催できた。体育祭は外部の体育館での実施が定例化してきた。生徒の満足度も高い。（生徒肯定的回答　今年度 90%　昨年度 90%　一昨年度 88%）	◎
			課外活動の実績	柔道部・陸上競技部・パワーリフティング同好会の全国大会での活躍があった。	◎
			新しい夏服の検討	検討したが、最終的には本年度は見送りとなった。	×
			カウンセリングでの対応、不登校生への対応	カウンセリング相談者数延べ人数は、175 名（昨年度 152 名、一昨年度 146 名）で、対象生徒数は 36 名、対象保護者数は 5 名（昨年度対象生徒 34 名、対象保護者数 11 名）であった。件数としては増加傾向にある。どの事象に対しても、丁寧な対応を心掛けている。	○
			不登校生徒、いじめ、合理的配慮が必要な生徒について討議	委員会のメンバーで慎重に審議した。	○
			人権教育委員長による講話	総合的な探究の時間や HR 等を活用できた。	○

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 ［◎-評価 80%以上　○-評価 60% △-評価 40%　×-評価 20%以］	
□進路指導領域	**[1] 進路意識の高揚と進路実績の向上** (1) 3 年間を通して計画的・体系的に進路指導を行い、適切な情報提供をすることで、進路に対する目的意識を形成するとともに学習への意欲を高める。社会的に広い視野を持たせるため、また自己表現のベースとして、 表現力・読解力の強化をすべての教科の学習を通じて行う。 (2) 文理進学コースの生徒、「まな部」意欲的に取り組んでいる生徒を中心に、大学入学共通テストや一般選抜受験を奨励し、国公立大学および難関私立大学への進学意欲を高め、合格者数を増やす取り組みを行う。 (3) 就職や公務員試験受験を含め、多様な進路選択に対応できるような指導体制を構築する。 (4) 大学入学共通テストについて分析を行い、該当教科、進路指導部、コース会議を中心に対応を進める。 また、「情報Ⅰ」の自己採点結果を検証し、効果的な学習時期、学習方法を検討する。 (5) 総合型選抜など、増えつつある年内入試への対策を講じていく。 **[2] 系列大学との連携強化** (1) 1 年次より系列大学で学ぶことの意義を伝えて、系列大学の魅力を浸透させるなど、3 年間を通じて体系的な進路指導を行う。特に隣接する大阪商業大学との連携をさらに強化し、生徒および教職員が社会が求める人材について知る機会を設けたい。 (2) デザイン美術コースを中心として、神戸芸術工科大学との連携強化を引き続き図る。教員を招いての授業や夏季休暇を利用した大学での授業等は継続していく。さらに、保護者対象の芸工大見学ツアーなどを企画し、受験先として選択されるための一助とする。	・学年ごとの年間進路学習の立案 ・文理進学コースをはじめとする進路実績の向上、大学入学共通テスト受験奨励 ・『大学入学共通テスト』に対する研究、情報提供 ・文理進学コース 3 学期特別授業の実施 ・文理スタディキャンプの実施 ・文理進学コースの内発的動機づけへの取り組みの検討 ・多様な進路に対する指導体制構築 ・系列大学（大阪商業大学/神戸芸術工科大学）との連携強化	学年ごとに目標に応じた進路学習の計画・実施	進路希望調査を実施し、進路ガイダンスへとつなげた。進路指導部が中心となり計画的に指導をしている。各コース独自の取り組みとの融合が課題である。	○
			大学入学共通テストへの受験奨励	試験受験者数は 34 名（昨年度：32 名）。 2 名が国公立大学に合格した（昨年度：9 名）。 ※難関私大（関関同立産近甲龍）への合格数は 36 名であった（昨年度：110 名）。	◎
			大学入学共通テストに対する研究	多くの科目で全国平均点を下回っており、さらに対策が必要である。	△
			文理進学コース 3 学期特別授業の実施	学年末試験に追われることなく、大学入試に集中できる環境を整えている。	○
			文理スタディキャンプ（BSC）の実施	OB の力も借りて、プログラムを組んだ。生徒たちの満足度も高い。	◎
			文理シーキング・アクティビティ（BSA）の実施	3 つのプログラムがそれぞれ独自の活動をしており、発表会も実施した。	○
			総合的な探究の時間を用いた、志望理由書等の練習	学校評価アンケート「進路に必要な情報が適切に提供されている」が 90%を超える肯定的意見があった。	○
			系列大学（大阪商業大学/神戸芸術工科大学）との連携強化	大阪商業大学　83 名(21%)　昨年 69 名(19.4%) 神戸芸術工科大学 6 名（1.5%）昨年 0 名（0%） 大阪商業大学へは卒業生の 20%を超える人数が進学した。神戸芸術工科大学へは、デザイン美術コース以外からも進学者が出た。	△
			就職希望者について	求人者数も回復傾向にあり、就職希望者 12 名全員が内定をもらうことができた。タブレットを用いながらの指導も定着しつつある。	◎

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 ［◎-評価 80%以上　○-評価 60% △-評価 40%　×-評価 20%以］	
□入試・渉外領域	**[1] 広報活動の強化** (1) 全教員で募集活動を行うという意識を持つ。 (2) 現状にあった各コース募集定員への変更を検討する。 (3) 東大阪市、八尾市、大阪市など地元を中心に、中学校への渉外活動を重点的に実施する。アスリート推薦での訪問を活かし、広範囲で本校を周知する活動を行う。 (4) 中学校への出前授業については、広報活動の一環として捉え、積極的に引き受ける。 (5) 学習塾への訪問回数を増加し、広報活動に努める。学習塾対象説明会のみならず、塾を訪問しての説明会を提案する。 (6) 学校案内(パンフレット)作成にあたり、業者との連携を重ね、本校のアピールしたい内容を着実に伝えることのできるものをつくる。 (7) 本校でのオープンスクール、入試説明会を全教職員で取り組み、生徒の参加や協力も得ながら内容をさらに充実させる。 (8) 行事やクラブ活動など本校の情報を積極的に発信し、ホームページの更新頻度を高めていく。また SNS を利用した広報活動の検討も行う。 (9) ＷＥＢ出願は継続して実施する。昨年度導入した合否発表（対受験生および対中学校）システムを継続し、今後入学手続きのＷＥＢ化など有効活用を継続して検討する。 **[2] 専願受験者の確保** (1) コースポリシーに沿った教育活動を明確にし、専願志願者増を目指す。グローバル商大２００名、文理進学２５名、スポーツ専修１００名、デザイン美術２５名　計３５０名の専願受験者を目指す。 (2) 充実した特待生制度について広報を強化するとともに、中学校や学習塾へ丁寧に説明することで理解を得るようにする。 (3) 文理進学コースでは、大学合格実績や模試のデータを用いた個々の学力の伸度を伝え、また進路希望に対応した細やかなカリキュラムの魅力を伝える。新設した文理進学コース特待生制度を強調し、専願志望者を増加させる。	・基盤とする東大阪市、八尾市、大阪市、柏原市、生駒市、奈良市の中学校から安定した入学生徒数を確保する。そのため入試対策委員会と企画広報部が連携し、効果アップを図る。オープンスクールや入試説明会は全教職員で取り組む。 ・学習塾への広報活動強化 ・入試相談ウィーク	「オープンスクール」 「入試説明会」 「塾対象説明会」 その他各種説明会の参加人数からの検証	＜オープンスクール＞ ・第 1 回 476 名（昨年：488 名） ・第 2 回 354 名（昨年：436 名） ※計 830 名（昨年：計 924 名） ＜入試説明会＞ 今年度は 3 回実施することができた。 1 回目：99 組、2 回目：144 組、3 回目：180 組（昨年 106 組、141 組、228 組） 最も大事な 3 回目の説明会が参加数を減らしてしまい残念な結果であった。オープンスクールの参加者を入試説明会にいかにつなげるかが課題である。 ＜塾対象説明会＞ 67 塾（昨年 77 塾） 外部説明会に参加をしない方針の塾も多いなか、例年通りの参加数で、塾担当の渉外担当教員の活動の成果である。 ＜入試相談ウィーク＞ 今年度も 12 月に実施した。33 組（昨年 35 組）が参加した。組数は減少したが、例年とほぼ変わらない参加数であった。 ＜塾訪問＞ 延べ訪問塾数は 1250 塾(昨年度は 1200 塾　一昨年度 1135 塾)と増えた。今年も専従の担当者を配置できたことが大きい。	△
		・ネット出願の導入	ネット出願について	WEB 出願システム“miraicompass”が、定着しつつある。	◎
		・中学校への出前授業積極的受入れ	出前授業への対応	中学校への出前授業は、本校の学びを中学生用にアレンジした講座を実施した。(昨年 8 中学 13 講座)	○
		・ホームページを用いた迅速な情報発信	ホームページを用いた情報発信	企画広報部を中心に、学校行事やトピックなど可能な限りリアルタイムでホームページに掲載した。	○
		・スポーツ専修コースのクラス編成	アスリート推薦スカウティングについて	アスリート推薦での受験 124 名（昨年度 105 名） 今年度も 100 名前後を適正人数目標に渉外活動を行った。	○
			令和 8 年度入学試験の受験数	出願数　818 名（昨年 898 名） ※女子の志願者割合 37.1% 専願　318 名（昨年 315 名） 併願　500 名（昨年 583 名） 入学数　355 名（昨年 354 名） ※女子の入学者割合 38.2% 女子の志願者の割合は目標（40%）を達成できなかったが、昨年（33.8%）より微増しており、引き続き女子生徒の入学を意識した取り組みが必要である。	△

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 [◎-評価 80%以上　○-評価 60% △-評価 40%　×-評価 20%以]	
□入試・渉外領域	(4) 放課後デッサン指導や学習指導、また、神戸芸術工科大学との高大連携を強く打ち出すことでデザイン美術コースの魅力を伝える。また新設したデザイン美術コース特待生制度を強調し専願志望者を増加させる。また、デッサン講習会において、優秀な結果を出した生徒を把握し、その出身中学校へ本校入試渉外担当者と美術教員が訪問するなどの直接的なアプローチを積極的に行う。 **[3] 女子生徒の確保** (1) 共学校としての認知を受けるために女子生徒数を志願者の 45%、入学者の 40%を目標に取り組む。 (2) 人気のある制服の着こなしと魅力を伝える。女子生徒目線で変更した体育授業時のジャージや、サニタリーボックスを設置したトイレ、什器の入れ替えを行い明るい雰囲気となった食堂など、近年改善してきた点をアピールしていく。また、さらに女子生徒の満足度を高める施策を行い、改善に向けて努力していく。 (3) 実績をあげている陸上競技部、柔道部、空手道部などの女子生徒の活躍を紹介し、女子生徒に対する募集活動を強化していく。		オープンスクール等での施設のアピール 女子部員の活躍	入試イベントで学校案内の実施。	○
□教員の研究・研修領域	**[1] 教員の教育力向上** (1) 教科指導力の向上を最重点目標として、時間講師も含めて全教員が行う公開授業（研究授業）を継続実施する。見学した教員の事後アンケートを教科担当者にフィードバックすることで、授業内容・方法の向上を図る。また ICT 機器を用いた教育実践の研究授業を適宜行う。 (2) 校内研修会を体系的に行い、教員の教育力向上を図るとともに意識統一を行う。教務部主催の放課後ミニ勉強会や常勤講師 1 年目対象の研修会は継続して実施する。 (3) 外部研究会への積極的な参加を促す、または指名する。参加後に研修会や教科会で報告し、全体に情報が共有できるようにする。 (4) 学校評価や授業評価の項目を、スクールミッションと連動できるように見直し、実施する。結果を基に授業を分析し、授業改善の指針とする。 (5) 教科会を充実し、教科内での意見交換や止揚の場・教科教育力向上の場として活用する。 (6) 生徒のモチベーションを上げる話し方、接し方を講じ、現状の社会通念に即した教授方法を確立する。 **[2] 教員組織の活性化** (1) 教育目標や課題を全教職員で共通認識し、該当分掌を中心に教員相互で助け合える組織を継続する。 (2) 各分掌での業務や責任の所在の見直しを行う。「総務部（仮）」の設置を検討し、各分掌業務のバランスを図る。	・公開授業の実施 ・校内研修（教務部・保健委員会）の実施 ・外部研修会への積極的参加 ・他校視察 ・授業アンケート等の活用 ・教科会の充実 ・時間講師説明会の実施 ・「総務部（仮）」の設置の検討	公開授業	本年度から、各教科から 1～2 名の教員の授業を公開し、同一教科の教員が見学に行く形式に変更した。この形式で 3 年間継続する予定である。	○
			校内研修	教務部主催の全体研修会は、「選ばれる学校であり続けるために」というテーマで他校での経験のある教員に講師を担当してもらった。ミニ勉強会を 2 回実施した。主体的に学び、成績アップのための授業研究会は 1 名 2 回実施した。（昨年度 1 名 13 回）	△
			外部研修会への参加	日本私学教育研究所主催の研修会に延べ 4 名が参加した。現在の教育の課題や現状、他校の取り組みを知る良い機会となっている。	◎
			他校への視察	放課後支援の視察のため 1 校訪問した。	○
			授業アンケートの実施	2 学期中に授業アンケートの実施、レポートの提出を義務付けた。自身の授業を振り返る良い機会だが、未提出の教員もいるのが現状である。また、スクールミッションとの連携まではできていない。	△
			教科会議を通じての教授力向上	新学習指導要領での観点別評価について、教科内で議論することが多くなっている。同一科目の横並び教員の打ち合わせの場も多くなっており、コミュニケーションの機会は以前より多くなっている。	○
			時間講師対象の説明会実施	4 月初旬に、全時間講師対象に学校方針の説明会を実施した。	◎
			「総務部」の設置	「総務部」の設置を検討し、次年度より新設することが確認された。	◎

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 [◎-評価 80%以上　○-評価 60% △-評価 40%　×-評価 20%以]	
□経営領域	**[1] 教員の労務管理** (1) 法人本部と綿密に連携しながら、“働き方改革”に伴う教員の労働時間の問題を踏まえつつ、人事計画を策定する。また令和８年度より「学校週５日制」の実施を目指し、法人へ相談しながら検討を始める。	・「学校週５日制」実現に向けての議論	カリキュラムの改定 働き方についての議論	教務部を中心に、新しいカリキュラムを作成した。また、土曜日の教員の働き方について議論を進めた。	○
	(2) 衛生委員会を実施し、教員の勤務状況や職場環境について情報交換する。また、必要があれば教職員へ働きかける。	・衛生委員会の実施	衛生委員会の実施	校医、養護教諭も参加し、環境設備・生徒・教員の健康状態について議論をした。	○
	(3) 現在は月 1～2 回程度、生徒の 18 時 30 分完全下校日を設けており、教員の退勤を推奨している。これに加え、指定強化クラブ主顧問や文理進学コースの担任など、勤務時間が多くなる傾向のある教員への対応を進めていく。	・18 時 30 分完全下校日の設定	教員の退勤の推奨	普段よりも早く退勤する意識付けが浸透している。	○
	(4) 教務部内にある奨学金業務を令和７年度に引継ぎ作業を行い、令和８年度より事務室業務に完全移行でき　るよう、法人と相談を行う。	・奨学金業務の移行	事務室への移行	令和 8 年度より事務室に移行することが確認されている。	○
	(5) 会議や打合せの実施方法を見直し、労働時間短縮に繋げるよう検討する。 **[2] 安定した財政基盤の構築** (1) 将来を見据えて適切な募集人員と入学目標数を設定するが、生徒減少期の中でも中期的に 400 名以上 13 クラスを目標に、募集活動を行う。				
	(2) ＬＥＤ化による効果を生かせるよう、電力の使用量の削減を継続的に呼びかけるとともに、ＩＣＴ機器を活用した紙資源の削減を呼びかける。	・ICT 機器の活用	ICT 機器の有効利用	職員会議をはじめ各種会議で紙を使用することはかなり減っている。	○
	[3] 教育環境の充実 「中期計画達成のための施策・投資計画」に基づき、2025 年度は下記のとおり各事業を推進していきたい。 (1) 体育諸施設改修・整備事業 大阪商業大学北敷地の人工芝グラウンドに加え、テニスコースも授業、課外活動の両面で有効活用する。それに伴い現存の体育館横テニスコート（１面分）のスペースを整備し、授業、課外活動などで利用できるようにする。また、100 周年記念事業の一環として準備が進んでいる新体育館新築に向けて法人本部とも連携を密にしながら整備を進めていく。現存の体育館および剣道場について、新体育館完成まで使用することになるが、昨今の酷暑のために夏季の授業や課外活動において決して安心・安全でない状態となっている。生徒や活動に携わる教員の健康のために、酷暑対策が急務である。	・新体育館の建設 ・新テニスコートの活用 ・酷暑対策	新体育館の建設 新テニスコートの活用 テントの購入	新体育館は令和８年度の完成に向けて進んでいる。また、テニスコートは完成し、テニス部が利用し、公式戦の会場としても利用されている。酷暑対策としてテントの購入が決定している。	○
	(2) マルチメディア教室の更新 保守期限をむかえるマルチメディア教室を更新する。		ICT 支援員の協力	ICT 関連の教員の相談窓口として、定着しつつある。	○
	(3) 教職員用校務端末（ノート PC）の更新 保守期限を迎え、修理が不可能となる教職員用校務端末（ノート PC）を更新する。				
	(4) ＰＣ室、印刷室　印刷機更新 現在、ＰＣ室、印刷室に設置している３台の印刷機（コピー・プリンター・スキャナーの複合機）が使用頻度が非常に高く、故障頻度も増加しているため、リース期間満了に伴い、新たな機器へ更新する。				
	(5) 学費システムの更新・クラウド版への切り替え 現在使用中の学費システム（ＴＯＭＡＳ）のサポート終了に伴い、更新するとともにハードウエアに依存せず、常にデータを安全にバックアップできるクラウド版に切り替える。				
	6) 校内防犯カメラ（7 台）の更新 校内防犯カメラ（7 台）のリース期間満了を迎えるに際し、今後、保証がなくなるため機器の更新を行う。				
	(7) 校舎グラウンド間陸橋塗装 本校校舎（西館）とグラウンドをつなぐ陸橋が経年劣化により塗装が剥げ、錆が目立ち見栄えも悪いため、崩落防止及び外観整備のため塗装を行う。	・陸橋の塗装について	塗装はせず現状のまま	高額な費用になるため進んでいない。ただし、広報用としてクラブの成果を垂れ幕として掲げる場所として活用できないか検討した。	×
	(8) 校務事務の適正化及び効率化の検討 校務事務の効率化も含めてクラウド型へのシステム更新の方向性を検討する。				

中間的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価 [◎-評価 80%以上　○-評価 60% △-評価 40%　×-評価 20%以]	
□経営領域	**[4] ガバナンスの強化とコンプライアンスの履行** (1) 校長・管理職及び運営委員会を中心にガバナンスの強化を図る。特に、校務分掌長、学年主任などの人事は、校長・管理職により基本案を作成し、打診の後に任命する。また、教員の指導的な立場である運営委員会の教員には、予算などを含めて可能な限り情報公開を行い、学校経営に対する参画意識を醸成する。 (2) 法令や通達へ適切に対応する。遺漏の無いよう大阪府教育庁私学課からの文書等は、管理職で回覧するとともに、関係各部署へ写しを配付する。 (3) クラブ活動の在り方について、学校方針（学校長方針）を検討し提示する。クラブでの年間計画作成や部費や合宿等に関する会計報告についての提出を義務化する。	・ガバナンスの強化	情報の共有	私学課等からの文書は管理職、該当分掌の部長間で共有した。	○
		・クラブ指導の在り方についての検証	クラブ指導の在り方について	スポーツ専修コース全学年「スポーツ演習」のコマをクラブ単位で実施した。今後継続していく中で、クラブ指導の在り方について検証できるものと思われる。 部費や合宿等に関する会計報告の提出は徹底できていない。	△
□その他	**[1] 保護者との連携強化** (1) ＰＴＡ活動へ教員全体で参画・協力する。 (2) 家庭で学業成績や学校生活の様子を把握してもらうために、1学期および2学期の年2回、クラスで三者懇談を実施する。また、保護者対象に授業公開を実施し、学校・授業の様子を見ていただく機会とする。 (3) さくら連絡網を家庭との連絡の手段として活用する。特に学校からの一方的な連絡に留まらず、欠席連絡やアンケート回収など保護者からの連絡ツールとしても有効利用する。 (4) 就学支援金及び授業料支援補助金と授業料との相殺を継続して行い、家庭の負担軽減に努める。 **[2] 地域との連携** (1) クラブやコースを中心に「東大阪市民ふれあい祭り」など地域行事へ参加・協力をする。また、文化祭など本校行事を近隣へ案内し、本校の様子を知っていただく一助とする。 (2) 第三者評価委員会を設けるに当たり、近隣自治会などへ協力依頼を行う。 **[3] 大阪商業大学附属幼稚園との連携** (1) 本校デザイン美術コースの協力授業を継続して行い、連携を図っていく。 (2) 運動会、避難訓練、夕涼み会などの幼稚園行事へ協力する。	・中間試験結果の家庭への通知	中間試験結果の通知	1学期・2学期の中間試験結果を生徒に成績表として渡し、各家庭にその旨をさくら連絡網で通知した。	◎
		・授業公開期間の設定	授業公開	11 月に期間を設けて行った。今年度もさくら連絡網を使って各家庭に連絡した。さくら連絡網で配信するようになってから見学者は増加した。	○
		・三者懇談の実施	三者懇談	1学期・2学期の年2回クラスで三者懇談を実施することで、家庭で学業成績や学校生活の様子を把握してもらうことができた。	◎
		・「さくら連絡網」の活用	「さくら連絡網」の活用	年度当初に登録をお願いすることで、ほぼ全家庭に登録していただいた。 欠席連絡や長期休みの前後における確認事項、事務室からの連絡、各種行事の連絡など大変有効に活用されている。ただし、保護者と教員による双方向の連絡ツールについて議論したが、実現には至らなかった。	○
		・地域住民への協力依頼	ふれあい祭りへの参加	今年度は東大阪市民ふれあい祭りが実施され、デザイン美術コースがちんどん体験を行い、また吹奏楽部も出演した。	◎
		・学校評価委員会の開催	学校評価委員会の開催	学校評価委員会を開催し、様々な意見を聞くことができた。特に、自治会の方、生徒自治会役員の意見は大変参考になった。	◎
		・デザイン美術コースの活動	幼稚園との「協力授業」	デザイン美術コース2年生の幼稚園との『協力授業』を実施した。 また幼稚園での屋外行事（運動会、夕涼み会など）における本校グラウンドの使用にあたり、体育科およびグラウンド使用各クラブが調整、協力を行った。	◎